

「思い」の因縁が 結果を生む

心の中でどういう思いを抱いているかによって、その人の性格は変わっていくものだと思う。芥川龍之介さんは「運命は、その人の性格の中にある」と言う。「人は自分の性格にあつた事件にしか出くわさない」とある評論家はニユースで語っていた。つまり「私は大変不幸な事件に巻き込まれています」というのは、条件はそれぞれ色々あるにせよ、「それは紛れもなくあなたの思いが呼んだのですよ。あなたの性格がそれをつくつたのですよ」と、いうところでしょうか。当然これは不幸なことばかりではなく、逆に喜ばしい事も同様でしょう。

お釈迦様のお悟りの中心というのは一言でいうならば、「この宇宙は「因」と「縁」によって成り立っている。「因」とは原因だが、「この「因」が「縁」に触れて「果」、つまり結果が生じると考えられている。

現代物理学の最先端にある宇宙の原理に、お釈迦様のこの考えを照らし合わせてみても同じ解釈がなされている。お釈迦様が修行されて悟りを開いたというのは、真の智慧を得たという意味であります。「真の智慧」つまり、お悟りを開いた境地から自然界を見ると、宇宙というのは

森羅万象あらゆるものが、まず何らかの原因があり、それが縁に触れて結果を生んだものなのだという事になります。もう少し分り易く言えば、1粒の米の籾(もみ)を田んぼに植えると、水と土壌の作用や天候によって芽が出る。そして太陽の光に当たってスクスクと伸びて沢山の米の籾を作る。これを因果の法則で見れば、1粒の最初の籾が原因となる。そして土壌、水、太陽光線といった森羅万象あらゆるものが縁となり、果を結んで米となつて実る。生物の世界でも物理化学の世界において、全てがこの法則で成り立っているのです。お釈迦様はお悟りを開かれた目でこの世界を見て、「宇宙の真理とは、森羅万象全ての事象には原因があつて、原因は縁によつて結果を生んでいく」と説いておられます。では、この現世で人間が作る原因の最初にあるものは何かといえ、それは人間の思いです。我々は自分の心に思つたことを実行するのであつて、心に思わぬことは実行しない。思ふことが原因だし、思いを実行したこともまた原因となるわけです。その思いと行動の結果として、いま我々が生きている人生があるということになります。

仏教では前世・現世・未来世の三世があると教えています。ではその現世で暮らしている我々の現在の環境には、家庭・会社などがあります。それらは我々が前世でつくつた原因、そして現世に生まれてきてつくつた原因の結果となります。そうしてつくつた原因が

縁に触れて、この現世の色々な関係の中で結果を生んだものが現在の我々の生活であります。この原因の「因」を仏教では「カルマ・業」という。この業が縁に触れて現実の世界をつくつていくのだと仏教は教えています。しかし私自身前世でどういうカルマを積んだかなど知る由もありません。だからせめて自分の意識のあるこの現世ではいい因をつくりたい。そうすれば、おのずといい結果が生まれるだろうと思えます。そう考えた時、私は世のため人のために少しでも善いことをして生きていこうという思いを抱くようになりました。善い行いは素晴らしい因をつくるわけだから、それがこの世で縁に触れて、善い結果を生んでいくのではないかと。なんとか善い種を播きながら善い結果が得られるような生き方をしたいと思ひ、それにはまず善き思いを心に抱く事が大事だと思つた。常に感謝の心を忘れないようにしていこう。優しい美しい思いやりの心を忘れないようにしていこう。『慈悲の心』。一生懸命努力をし、一生懸命働こう。忍耐の心を持って、それを耐え忍ぼう。人間としてやってはいけない悪いことを決してやるまい。子供心に両親や学校の先生から教わつた当たり前の道徳心、倫理観を守っていこう。仏教の根幹に『六波羅密』という教えがある。その中の「布施」とは、施しをするという意味ですが、それは人様を助けるということ。「持戒」は戒律を守ることです。お釈迦様は、人間とし

てやってはならないことを守れと示され、持戒が大切だと仰つた。「精進」は一生懸命努めなさい、働きなさい。人生を生きていくためには働くことが何よりも大切だと教えています。「忍辱」は何があつても耐え忍ぶ。つまり他を思いやること、戒律を守ること、精進努力をすること、耐え忍ぶこと、そういうことが修行の中で悟り(「気づき」)を開くためには一番大事なのだとお釈迦様は仰つておられる。「人は何のために生きるのか」と問われた時、そういう美しい善い心をつくつていくためであるといえるのではないのでしょうか。人生の目的とは、持つて生まれてきた魂が少しは美しい魂になつたか、逆に汚れてしまつたか、そういう事なのではないでしょうか。生活が貧しかろうと、どんな逆境にあろうと、日々美しい魂になるように、自分の思いをシツカリ持ち、そして目的に向かつて努力を続けていきたいものです。そこにこそ、この世に生まれてきた本当の意味があるのではないかと確信いたしております。

合掌

副住職 谷川 寛敬

